

付録1 現状のレビュー環境についてのアンケート内容と結果

現状のレビュー指摘の活用環境について		人	%
過去のレビュー指摘を収集して管理しているか。			
選択肢	1：社内もしくは部内単位。	6	24%
	2：プロジェクト単位。	15	60%
	3：個人単位。	2	8%
	4：収集していない。	2	8%
コメント	-		
現在のレビュー指摘の提供形態について回答ください。			
選択肢	1：指摘情報の詳細を、作成者が閲覧できる。	14	58%
	2：指摘情報はチェックリストとして組織から提供される。	9	38%
	3：閲覧できない。	1	4%
コメント	[回答 1]レビュー議事録で提供。 [回答 3]レビュー指摘の提供形態がない。		
過去のレビューの指摘結果を参照することで、成果物の品質は向上すると思うか。			
選択肢	1：思う。	23	92%
	2：思わない。	2	8%
コメント	[回答 1]どちらかというところ「思う」だが、指摘内容は千差万別のため、過去の指摘結果が有効とは限らない。 [回答 1]問題が発生しやすいポイント、気を付けるべきポイントが見えてくると考えます。		
成果物作成時に過去のレビュー指摘を参照して、成果物の品質向上の活動を行っているか。			
選択肢	1：社内もしくは部門の過去の指摘情報。	2	8%
	2：プロジェクト内の他作成者の指摘情報。	11	44%
	3：自身が過去指摘された情報。	6	24%
	4：していない。	6	24%
コメント	-		
組織単位(社内、部門内、プロジェクト内、グループ内等)で管理されているレビュー指摘を活用する場合、不満に感じていることがあるか。(複数選択可)			
選択肢	1：指摘内容の記載が不十分でよくわからない。	2	6%
	2：指摘内容の記載が抽象化されすぎていて、活用しづらい。	10	29%
	3：指摘内容の記載が抽象化されていなく、活用しづらい。	4	11%
	4：分類種類が使いづらく、目的の情報を探すのに時間がかかる。	4	11%
	5：分類内容が不十分で、目的の情報を探すのに時間がかかる。	1	3%
	6：簡易な指摘などが含まれて情報が多くなり、目的の情報を探すのに時間がかかる。	7	20%
	7：その他。	7	20%
コメント	[回答 1]フォーマットが統一されておらず、記載内容がバラバラのため粒度に違いが出ている。 [回答 2]レビューにいなかった人は内容がわかりづらい。 [回答 2]指摘の目的が一目ではわからない。 [回答 2]文章だけだとイメージしづらい。 [回答 2]要件や機能内容がない。 [回答 7]分類を行っていないため、総当たりでの確認になり時間がかかる。 [回答 7]レビュー前のチェック表で運用しているが、担当者別の指摘傾向等は読みづらい。 [回答 7]後でわかるように情報としては残されているが、残す先が統一されていないことで探すのに時間がかかる。		

付録2 検証結果

付録2.1 検証で付与されたタグ数と分類別割合

データ数

	合計	レベル			経験年数			タグ付与タイミング		
		初級 作成者	中級 作成者	上級 作成者	1～5年	6～10年	11年以上	作成者	追記者	作成者 追記
被験者(人)	17	7	6	4	3	5	9			
レビュー指摘	30									
付与タグ個数	1,324	572	469	283	218	771	335	823	479	22
タグ種類延数	516	242	150	124	91	291	134	299	199	18
タグ種類数	297									

タグ分類説明

タグ分類	説明
機能系	欠陥指摘対象の機能に関するタグ
対応方法系	実現方法や定義等の対応方法に関するタグ
品質特性系	使用性や安全性など品質特性に関するタグ
注意喚起系	閲覧者に注意喚起するタグ
表現方法系	成果物の表現方法に関するタグ
影響度系	欠陥指摘の影響に関するタグ
その他	その他タグ

タグ分類別個数

タグ分類	合計 (延数)	レベル			経験年数			タグ付与タイミング		
		初級 作成者	中級 作成者	上級 作成者	1～5年	6～10年	11年以上	作成者	追記者	作成者 追記
機能系	171	94	28	49	31	89	51	97	68	6
対応方法系	141	64	40	37	22	79	40	84	53	4
品質特性系	43	20	19	4	12	27	4	24	18	1
注意喚起系	45	15	22	8	8	29	8	29	16	0
表現方法系	76	33	25	18	13	43	20	40	30	6
影響度系	22	5	10	7	3	10	9	12	10	0
その他	18	11	6	1	2	14	2	13	4	1
合計	516	242	150	124	91	291	134	299	199	18

タグ分類別割合

タグ分類	合計	レベル			経験年数			タグ付与タイミング		
		初級 作成者	中級 作成者	上級 作成者	1～5年	6～10年	11年以上	作成者	追記者	作成者 追記
機能系	33%	39%	18%	39%	34%	31%	38%	33%	34%	33%
対応方法系	27%	26%	26%	30%	24%	27%	30%	28%	27%	22%
品質特性系	8%	8%	13%	3%	13%	9%	3%	8%	9%	6%
注意喚起系	9%	6%	15%	7%	9%	10%	6%	10%	8%	0%
表現方法系	15%	14%	17%	15%	14%	15%	15%	13%	15%	33%
影響度系	4%	2%	7%	6%	4%	3%	7%	4%	5%	0%
その他	4%	5%	4%	1%	2%	5%	1%	4%	2%	6%
合計	100%	100%	100%	101%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

タグ分類別個数と割合(重複削除)

タグ分類	合計	合計
機能系	73	25%
対応方法系	91	30%
品質特性系	30	10%
注意喚起系	32	11%
表現方法系	43	14%
影響度系	14	5%
その他	14	5%
合計	297	100%

付録 2.2 検証で付与されたタグ(抜粋)

分類	タグ	類似タグ	
機能系	MSG	メッセージ	メッセージ内容
	エラー	エラー表示	エラー表示内容
	キャンセル	キャンセル・中断	キャンセル処理
	ソート	ソート対応	
	メール	メール送付	メール発信
	予約/キャンセル	予約キャンセル	予約キャンセル対応
	時間	時刻	時刻表示
	権限	権限対応	
	日付	日付関連	
	日付入力		
	文字種		
	ログインユーザー		
	過去	過去データ	
	予約画面		
	予約状況	予約状態	
対応方法系	12 時間表示/24 時間表示	24 時間内対応	24 時間表記
	MSG 削除		
	MSG 追加		
	MSG 変更		
	カレンダー式	カレンダー方式	
	ボタン	ボタン追加	ボタン表示/非表示切り替え
	画面設計	画面表示	
	境界値		
	排他	排他処理	
	不正値	不正値入力	不正日付
	例外処理		
	フロー		
	画面イメージ		
	ログ		
	機能の最適化		
品質特性系	機能性		
	誤操作	誤操作防止	誤入力
	自由度		
	実使用想定		
	利便性向上	利便性考慮不足	ユーザー利便性
	ユーザーが入力	ユーザーの誤操作防止	
	ユーザーへの説明不足		
	ユーザー視点	ユーザー制限	
	ユーザー利便性	使い勝手	使用感
	ユーザビリティ		
	ユースケース		
	操作ミス防止	操作間違い	

付録 2.2 検証で付与されたタグ(抜粋) (続き)

分類	タグ	類似タグ	
注意喚起系	検討不足	検討漏れ	
	矛盾		
	要求抜け		
	Nさん指摘		
	改善		
	管理者目線		
	誤認識		
	再確認		
	仕様考慮漏れ	仕様漏れ	
	条件考慮漏れ	想定漏れ	
	表示タイミング考慮		
	変えたい		
	イレギュラーなデータの防止		
	ありがち		
	新人注意		
表現方法系	一覧	一覧化	
	記載内容不足	記載不足	記載漏れ
	文言修正	文言変更	
	別途資料		
	明示		
	用語		
	理由		
	フォーマット		
	規定		
影響度系	コスト		
	レア	レアケース	
	開発工数への影響		
	運用	運用関連	
	運用ルール変更	運用改善	
	機能追加	機能不足	機能変更
その他	いつの話		
	パイロットとヘリコプターの不在		
	空ヘリコプター		
	なう		
	間違った		
	パズル		
	質問		
	要望		
	ストレス		
	なんで		

付録 2.3 タグ毎の付与されたレビュー指摘件数の一覧(抜粋)

件数上位タグ		件数下位タグ	
タグ	付与された レビュー指摘件数	タグ	付与された レビュー指摘件数
機能	24	ボタン	1
仕様変更	21	ボタン説明	1
予約者目線	20	ボタン操作	1
ユーザビリティ	19	ボタン表示/非表示切り替え	1
仕様考慮漏れ	18	ボタン名変更	1
予約	18	まれ	1
考慮漏れ	17	メール発信	1
画面イメージ	15	ユーザー確認	1
改善	15	ユーザー権限	1
要望	15	ユースケース	1
仕様書の記載不足	13	リアルタイム連携	1
利便性考慮不足	13	レア	1
ユーザー考慮不足	11	レアケース	1
ユーザー利便性	11	ログ	1
機能追加	11	ログインユーザー	1
検討不足	11	ログイン時間と表示内容	1
検討漏れ	11	運用改善	1
仕様拡張	11	過去	1
説明不足	11	過去データ	1
変更	11	画面設計	1
MSG	10	画面入力	1
管理者目線	10	画面表示	1
仕様	10	開発者目線	1
状態・状況	10	管理	1
エラー	9	記載不足	1
意見が分かれる	9	境目	1
日付	9	具体的表現	1
UI	8	空ヘリコプター	1
ユーザーへの説明不足	8	権限	1
誤り	8	権限対応	1
使い勝手	8	現在時刻	1
日付関連	8	誤操作	1
規則	7	誤認識	1
仕様検討漏れ	7	構成	1
仕様追加	7	項目	1
使用感	7	再確認	1
状況	7	参照	1
表現	7	仕様削除	1
メッセージ	6	出口	1
規定	6	順序	1

付録3 RAT 法の実証実験についてのアンケート内容と結果

レビュー指摘に作成者自身がタグを付与する効果について		人	%
Q1. タグ付与前とタグ付与後のレビュー指摘を比較して、作成者の立場で必要な情報が検索しやすくなると思うか。			
選択肢	1: なる.	7	28%
	2: どちらかというとなる.	14	56%
	3: どちらかというとならない.	3	12%
	4: ならない.	1	4%
コメント	[回答 2]過去の指摘を探したいときに役立ちそう. [回答 2]タグに使用する名称が統一されていることが前提. 「ないよりはいい」と思う. [回答 3]同じ意味のタグが複数できてしまう.		
Q2. レビュー指摘にタグが付与されていた場合, そのタグを検索語として別の指摘内容を見ることは有用と感じるか。			
選択肢	1: 有用.	11	44%
	2: どちらかというと有用.	11	44%
	3: どちらかというと有用ではない.	2	8%
	4: 有用ではない.	1	4%
コメント	[回答 2]あくまで参考になるとは思うが, 大きなミスは防ぐことができる. [回答 3]話がそれそう		
Q3. タグの文言を自由に付与できることに賛成できるか。			
選択肢	1: 自由に付与できることで汎用性が出るためよい.	2	8%
	2: 自由に付与できることで汎用性が出るが, ある程度の定義は必要.	18	72%
	3: 分類が煩雑になるため自由度はなくして作成者間で定義をした文言でタグを付与したほうがよい.	4	16%
	4: タグ付与は不要である.	1	4%
コメント	[回答 1]文言を整理することで汎用性は極端に下がる. [回答 1]作成者のタグ(最初にタグ付けした人)の自由度が高いほど汎用性が広がると感じた. 2回目以降はどうしても1回目以上に自由にはならない. [回答 2]名詞入力(体言止め). [回答 2]人により表現がバラバラになる可能性がある. バラバラの場合, 検索が困難なケースが発生する. [回答 3]分析時のことを考えると, 自由度が無い方が進めやすいと思う. [回答 4]関わるプロジェクトのノウハウとなる為, 時間を割いてでも全ての内容を確認するべきと考える.		

付録3 RAT 法の実証実験についてのアンケート内容と結果（続き）

レビュー指摘に作成者自身がタグを付与するプロセスについて		人	%
Q4. レビュー指摘に対して、RAT 法によるタグ付与の作業で業務上の負荷が負担になるか。			
選択肢	1：負担にならない。	0	0%
	2：目的が明確であれば負担にならない。	15	60%
	3：目的が明確であっても負担である。	7	28%
	4：負担である。	3	12%
コメント	[回答 4] 指摘箇所が多ければ多いほど、負担となる。		
Q5. 実際の業務でレビュー指摘についてタグ付与を行いたいか。			
選択肢	1：有効な手法のため行いたい。	3	12%
	2：有効な手法のためどちらかというも行いたい。	16	64%
	3：有効な手法と思えないので今の管理方法でよい。	5	20%
	4：ほかに有効な手法はあるので、不要である。	1	4%
コメント	[回答 2] タグ付けだけでも傾向が見えてくる為行うだけ視野が広がる。 [回答 2] タグ付けを行うことが目的とならないように運用する必要がある。 [回答 2] 運用を明確にしなければ、「意味がない作業」と認識され内容も固定となり形骸化する恐れもある。 [回答 3] 統制の取れていないタグ付けを行う事を前提とし、手間と有効性を考えた場合、手間がかかると感じる。タグだけでは指摘内容の本質を追えず、本当の原因を失念すると考える。		

実験で付与したタグについて		人	%
Q6. 当実験を行うことで自分では思いっかず興味深いと思ったタグはあったか.			
選択肢	1: ある	16	64%
	2: ない	9	36%
コメント	[回答 1] 指摘の具体的な画面などはタグ付けしておくべき内容だと思った. [回答 1] 後々指摘の傾向などがタグ情報などからも取得でき, 気になったことを取得できるようになるかもしれないと思い興味深いと思った. [回答 1] 被験者の目線によって, タグの種類が違うことがとても勉強になった.		
Q7. 当実験でレビュー指摘にアクセスするために有効と思うタグ内容はあったか.			
選択肢	1: ある	13	52%
	2: ない	12	48%
コメント	[回答 1] 企業名, ユーザーによって, 方針が要求仕様の漏れなどが同じ可能性が高い. [回答 1] レビューを重ねる場合, 意見を聞く機会を創出できる. 主観に左右される指摘が抽出できることが興味深い. 他, 全般的に有効だと感じる.		

レビュー指摘の活用について		人	%
Q8. レビュー指摘を活用できると思うシーンがあれば回答ください。（複数回答可）			
選択肢	1：部下やグループの教育。	7	18%
	2：プロジェクト改善の分析資料。	16	42%
	3：設計等の参考資料。	15	40%
	4：その他。	0	0%
コメント	-		